

Ⅱ 調査結果の概要

1. 観光客入り込み数延べ数

平成20年の島根県の観光客入り込み延べ数は28,701千人で、これは前年と比べると、入り込み延べ数で510千人(1.81%)の増となった。

区 分	総 数	内 訳	
		県内客	県外客
観光客入り込み延べ数(千人)	28,701	5,884	22,817
構成比(%)	100.0	20.5	79.5
対前年増減(%)	+1.81	-14.10	+6.92

※ 県内客・県外客の別は、観光地点アンケート調査で得られた県内入り込み客率・県外入り込み客率を入り込み延べ数に乗じて算出。

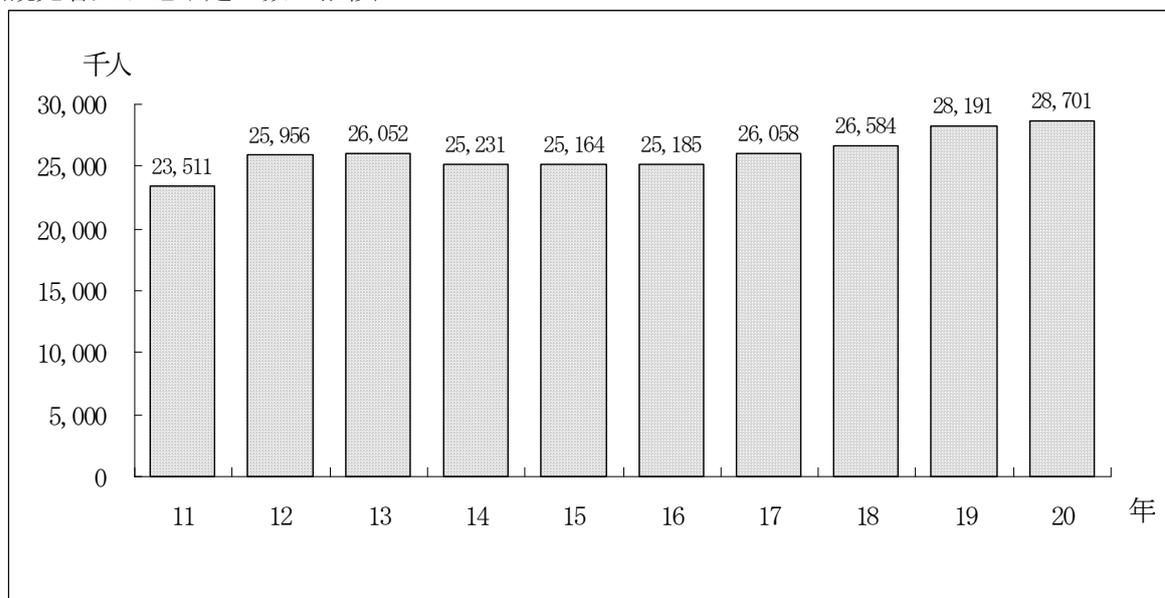
【入り込み客数の増加要因】

- ① 出雲大社平成の大遷宮による波及効果
- ② 島根を舞台としたドラマ「だんだん」放映効果
- ③ 石見銀山遺跡の世界遺産登録効果の継続(夏まで)
- ④ 調査対象地の追加(雲南市「道の駅」等3地点)

【入り込み客数の減少要因】

- ① 石見銀山世界遺産登録直後の賑わいの平静化(秋以降)
- ② 太鼓谷稲成神社の正月参拝等の客の減
- ③ 世界的経済不況による影響

〈観光客入り込み延べ数の推移〉



2. 観光客入り込み実数

観光客入り込み延べ数を基に観光地点アンケート調査で得られた数値により算定した観光客入り込み実数は11,991千人で、うち県内は3,703千人、県外は8,288千人と推計される。

〈平成20年観光客入り込み実数〉

区 分	総 数	県内容・県外客別		宿泊・日帰り別	
		県内客	県外客	宿泊客	日帰り客
観光客入り込み実数(千人)	11,991	3,703	8,288	2,558	9,433
構成比(%)	100.0	30.9	69.1	21.3	78.7
対前年増減(%)	-1.66	-14.76	+5.59	+9.04	-4.20

※ 宿泊客：島根県内に1泊以上宿泊する観光客。

※ 日帰り客：旅行日程が日帰り及び宿泊であっても島根県内には宿泊しない観光客。

3. 観光消費額及び経済波及効果

観光客入り込み延べ数を基に、観光地点アンケート調査で得られた数値により算定した平成20年の県全体の観光消費額は1,425億円と推測される。

また、この観光消費額が県内に及ぼす、経済波及効果は1,697億円(観光消費額の1.19倍)、付加価値額625億円と見込まれる。(「しまね統計情報データベース」から試算)

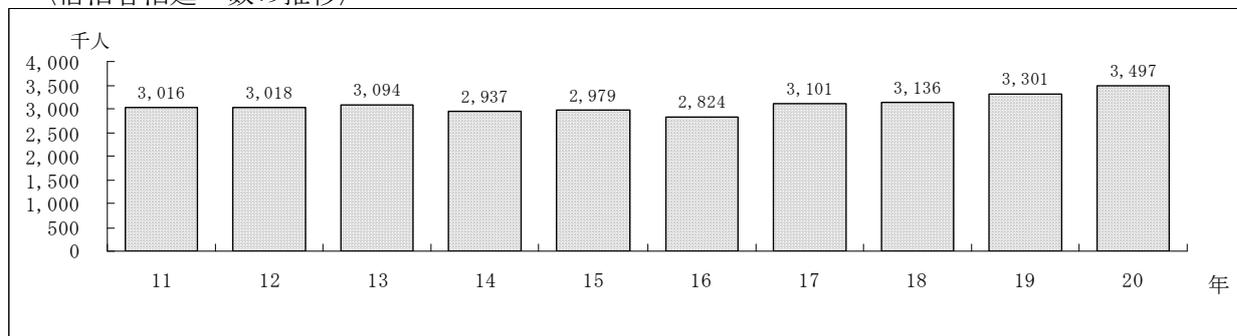
〈平成20年観光消費額〉

区 分	一人当たり消費額 A(円)	入り込み実数 B(千人)	年間消費額 A×B(千円)	対前年増減 (%)
県内客・宿泊	24,775	76.5	1,895,288	-8.54
県外客・宿泊	33,046	2,481.6	82,006,954	+20.58
県内客・日帰り	3,637	3,626.3	13,188,853	-8.14
県外客・日帰り	7,825	5,806.5	45,435,863	+13.45
合 計	—	11,990.9	142,526,958	+14.49

4. 県内宿泊客数

平成20年の島根県内宿泊施設への宿泊客泊延べ数は3,497千人で、これは前年と比べると196千人(5.94%)の増となった。

〈宿泊客泊延べ数の推移〉



区 分	ホテル 旅館	民 宿 ペンション	ユースホテル	社会教育 施設	公共宿泊 施設	キャンプ場	合 計
宿泊延べ数	2,888,316	133,732	0	75,386	279,191	120,076	3,496,701
構成比(%)	82.6	3.8	0.0	2.2	8.0	3.4	100
対前年増減(%)	+4.56	+12.62	—	-3.95	+9.08	+46.04	+5.94

※ ユースホテルは、休館等により宿泊の延べ数が未集計となっている。

5. 外国人宿泊客数

平成20年の島根県の外国人宿泊客泊延べ数は32,150人で、前年と比べ、560人(1.71%)の減となった。

平成15年度から始まった政府の「ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)」により、全国的に官民あげて外国人観光客誘致に取り組んでいる。しかし、昨年秋以降の世界的な経済不況と急激な円高進行により、外国人の訪問者数が減少し、特に台湾人の観光客が大きく落ち込んだ。

〈平成20年訪日外国人宿泊客泊延べ数〉

国 籍	宿泊客泊延べ数		対前年増減 (%)
	(人泊)	構成比 (%)	
米 国	5,574	17.3	+37.97
カ ナ ダ	239	0.8	-20.86
中 南 米	269	0.8	+8.91
ヨーロッパ	5,253	16.3	+3.20
韓 国	5,679	17.7	+84.02
台 湾	4,978	15.5	-49.28
香 港	39	0.1	0.00
中 国	6,058	18.9	+179.94
その他アジア	880	2.7	-27.15
オセアニア	761	2.4	+205.62
アフリカ	63	0.2	+2000.00
そ の 他	2,357	7.3	-63.55
合 計	32,150	100.0	-1.71

6. 観光客入り込み延べ数の分析

(1) 主要観光地観光客入り込み延べ数

市町村及び観光地・観光施設ごとの入り込み延べ数の上位10箇所は以下のとおりである。

〈市町村〉

市町村名	入り込み延べ数 (人)	対前年増減 (%)
松江市	8,859,017	+3.02
出雲市	8,647,988	+1.01
浜田市	1,930,264	+2.18
大田市	1,879,679	+13.05
安来市	1,429,655	+0.59
津和野町	1,185,535	-13.70
益田市	974,123	-2.60
雲南市	941,775	+53.03
斐川町	619,556	-13.72
奥出雲町	608,470	-7.37

〈観光地・観光施設〉

観光地・観光施設名	入り込み延べ数 (人)	対前年増減 (%)
出雲大社(出雲市)	2,501,000	+9.74
日御碕(出雲市)	1,354,000	+3.83
島根ワイナリー(出雲市)	1,067,574	-0.30
石見海浜公園(浜田市)	824,110	+9.95
石見銀山(大田市)	813,200	+13.94
玉造温泉(松江市)	681,701	+2.21
太鼓谷稲成神社(津和野町)	669,503	-16.81
一畑薬師(出雲市)	598,000	-9.94
三瓶山(大田市)	597,600	+1.29
道の駅キララ多伎(出雲市)	577,282	-3.93

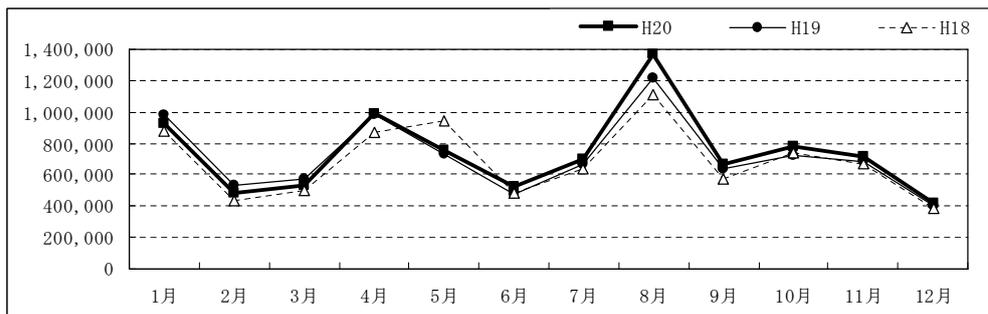
(2) 地域別観光客入り込み延べ数

地域別に観光客入り込み延べ数を比べると、最も多いのが出雲地域で9,268千人、次いで松江地域の8,859千人、大田地域の2,502千人、益田地域の2,384千人、浜田地域の2,202千人、雲南地域の1,793千人、安来地域の1,430千人、隠岐地域の264千人の順となった。

前年と比較して、松江地域、安来地域、雲南地域、大田地域、浜田地域が増加したのに対し、出雲地域、益田地域、隠岐地域は減少した

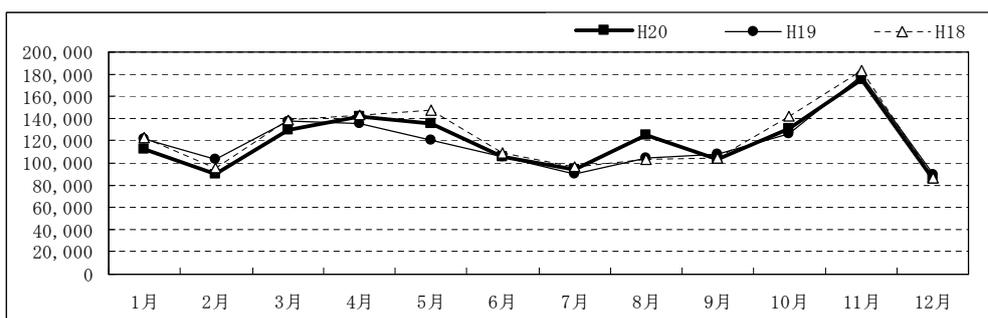
<地域別月別観光客入り込み延べ数>

<松江地域>



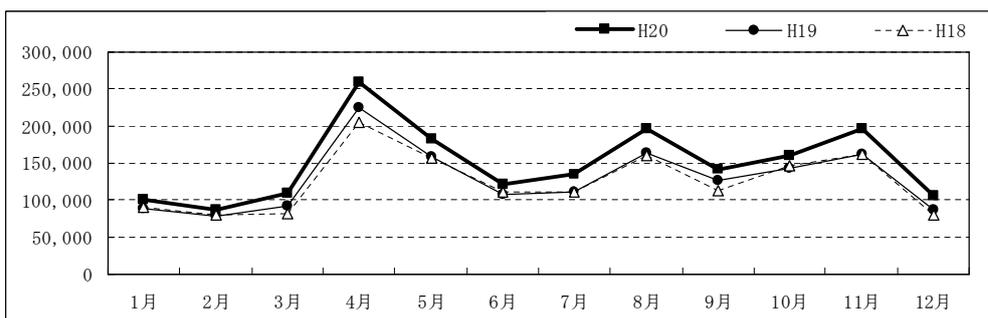
年	入り込み数
H20	8,859,017
H19	8,599,114
H18	8,227,948
対比	増減
H20対H19	+3.02%
H20対H18	+7.67%

<安来地域>



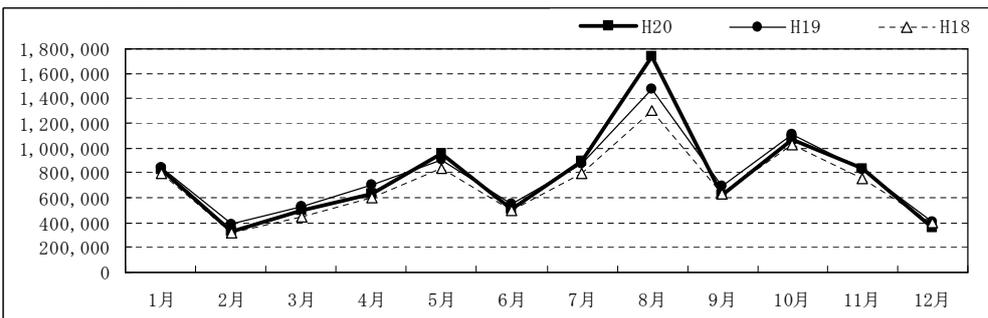
年	入り込み数
H20	1,429,655
H19	1,421,337
H18	1,471,522
対比	増減
H20対H19	+0.59%
H20対H18	-2.85%

<雲南地域>



年	入り込み数
H20	1,792,616
H19	1,543,712
H18	1,495,840
対比	増減
H20対H19	+16.12%
H20対H18	+19.84%

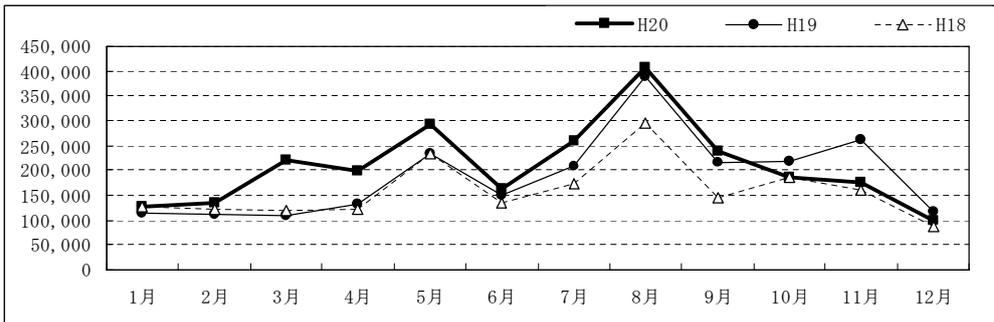
<出雲地域>



年	入り込み数
H20	9,267,544
H19	9,279,686
H18	8,372,903
対比	増減
H20対H19	-0.13%
H20対H18	+10.68%

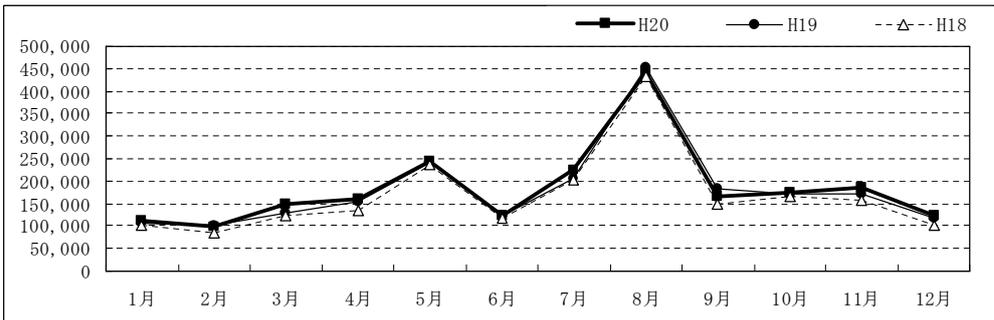
<地域別月別観光客入り込み延べ数>

<大田地域>



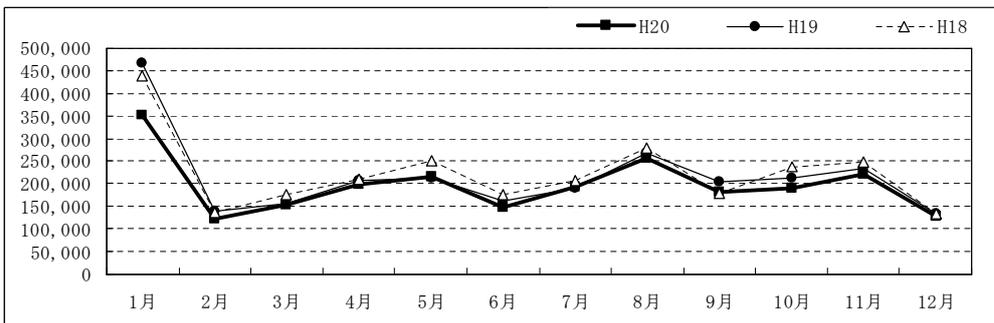
年	入り込み数
H20	2,501,986
H19	2,264,680
H18	1,903,130
対比	増減
H20対H19	+10.48%
H20対H18	+31.47%

<浜田地域>



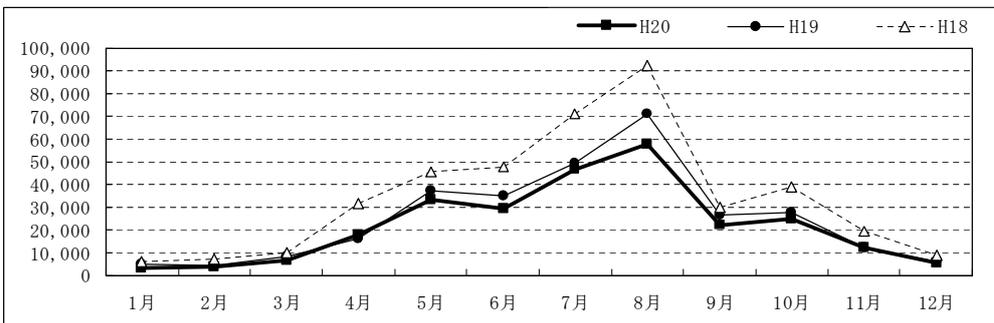
年	入り込み数
H20	2,201,981
H19	2,158,483
H18	2,006,957
対比	増減
H20対H19	+2.02%
H20対H18	+9.72%

<益田地域>



年	入り込み数
H20	2,384,108
H19	2,624,932
H18	2,697,499
対比	増減
H20対H19	-9.17%
H20対H18	-11.62%

<隠岐地域>



年	入り込み数
H20	264,024
H19	299,057
H18	408,545
対比	増減
H20対H19	-11.71%
H20対H18	-35.37%

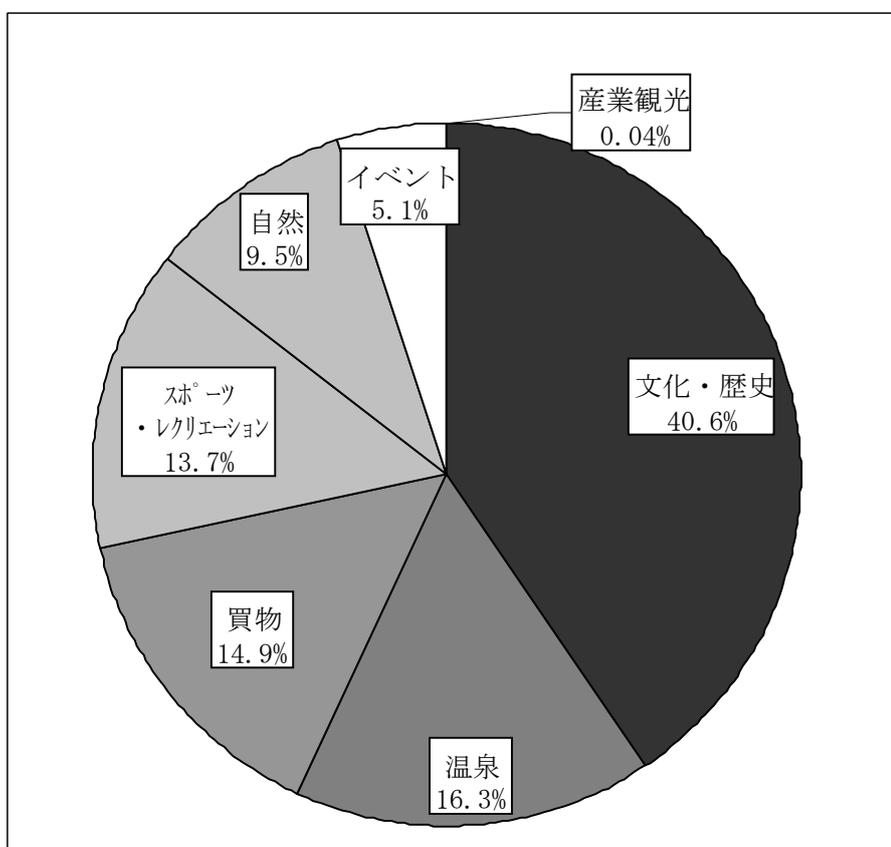
(3) 行動目的別入り込み延べ数

市町村から報告のあった観光地点（施設等）を観光客の行動目的別（中分類）に分類、集計の上、比較すると、最も多いのが「文化・歴史」で全体の40.6%、次いで「温泉」が16.3%で、この2つで全体の56.9%を占める。

〈行動目的別（中分類）入り込み数〉

行動目的	学ぶ（見る・体験する）			遊ぶ（楽しむ・リフレッシュする）			触れ合う（交流する）	
	自然	文化・歴史	産業観光	スポーツ レクリエーション	温泉	買物	行・祭事	イベント
入り込み数（人）	2,716,267	11,651,161	10,924	3,918,894	4,673,847	4,275,696	0	1,454,142
対前年増減（%）	+4.0	+2.2	+28.4	+1.0	-3.5	+5.1	0.0	+5.4

〈行動目的別（中分類）入り込み割合〉



〈行動目的別（小分類）入り込み数の上位5種類〉

行動目的			入り込み数 （人）	対前年増減 （%）
大分類	中分類	小分類		
学ぶ	文化・歴史	神社・仏閣	5,952,731	+1.0%
遊ぶ	温泉	温泉	4,673,847	-3.5%
遊ぶ	買物	朝市・市場	4,231,876	+5.5%
学ぶ	文化・歴史	博物館	2,011,368	-4.1%
学ぶ	自然	海岸景観	1,820,338	+1.5%

7. 観光客の動向（観光地点アンケートによる）

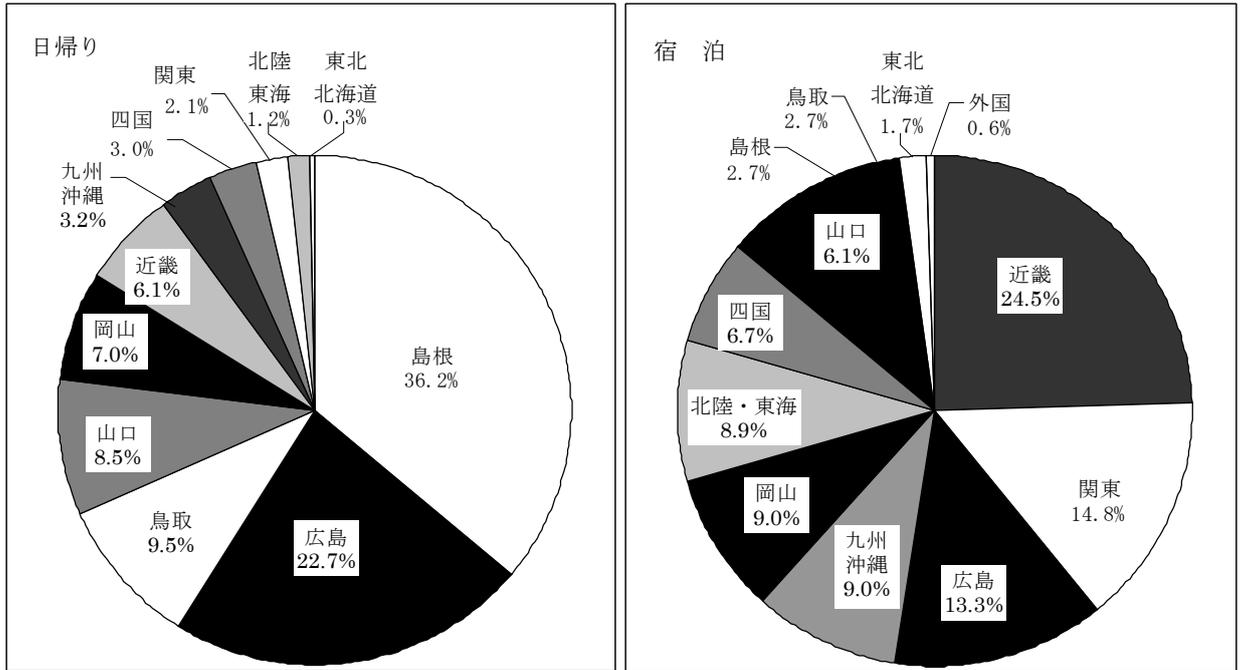
平成20年観光地点アンケート調査によって得られたデータをもとに、観光客の動向を分析する。

(1) 発地（住所）

ア. 日帰り・宿泊別入り込み割合

日帰りでは、島根県が最も多く 36.2%、次いで広島 22.7%で、中国5県からが全体の約8割(83.9%)を占める。

宿泊では、近畿が最も多く 24.5%、次いで関東 14.8%、近畿・関東地域を合わせると約4割(39.3%)を占め、中国5県の約3割(33.8%)を上回っている。



イ. 県外観光客入り込み割合

県外客の発地別入り込み割合は、広島からが最も多く 23.1%、次いで近畿 18.5%、関東 10.1%の順となっている。中国4県を合わせると全体の約5割(50.4%)を占めている。過去2年間と比べてもほぼ同じ傾向である。

〈県外観光客発地別入り込み割合の推移〉

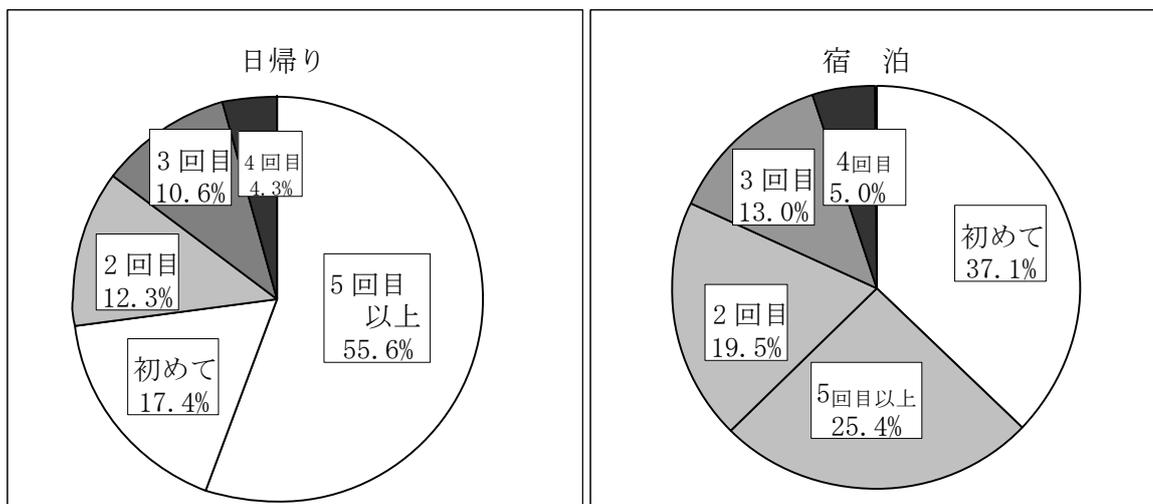
H18	11.3	9.6	26.4	7.7	6.2	5.1	15.9	5.8	10.6	1.3
H19	8.7	9.2	24.4	8.7	5.9	5.1	18.5	6.2	12.1	1.2
H20	8.0	10.0	23.1	9.3	7.5	6.0	18.5	6.1	10.1	1.2
	鳥取	岡山	広島	山口	九州 沖縄	四国	近畿	関東	東北・ 北海道	

注) 率の合計については、端数処理の関係により100%にならない場合がある。

(2) 旅行回数

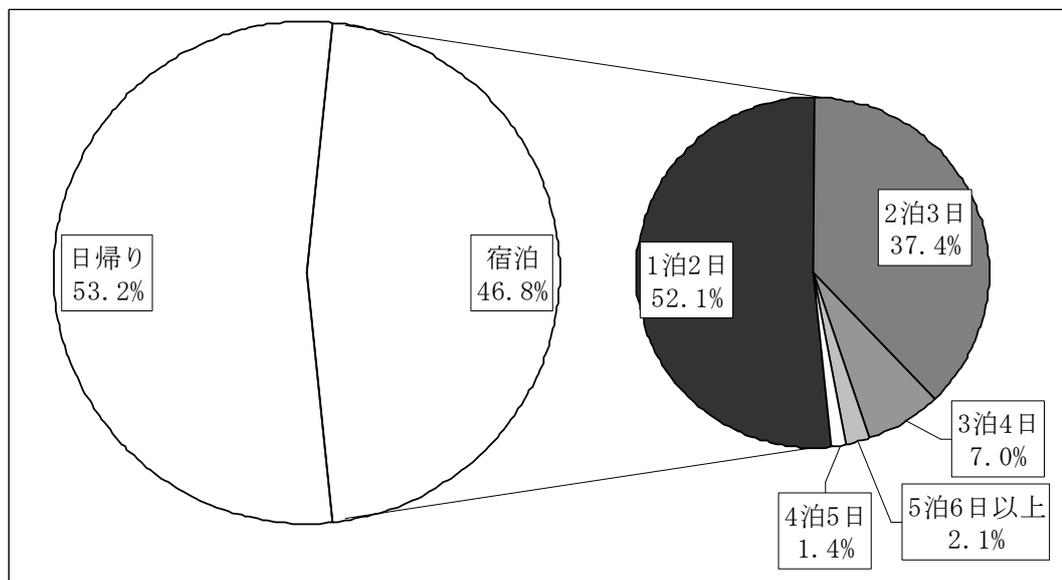
日帰りでは、「5回目以上」が半数以上の55.6%を占めており、頻繁に訪れているリピータが多い。宿泊では、「初めて」が最も多く37.1%、次いで「5回目以上」25.4%、「2回目」19.5%の順となっている。

(なお、この項目は県外客のみに島根県への訪問回数を質問している。)



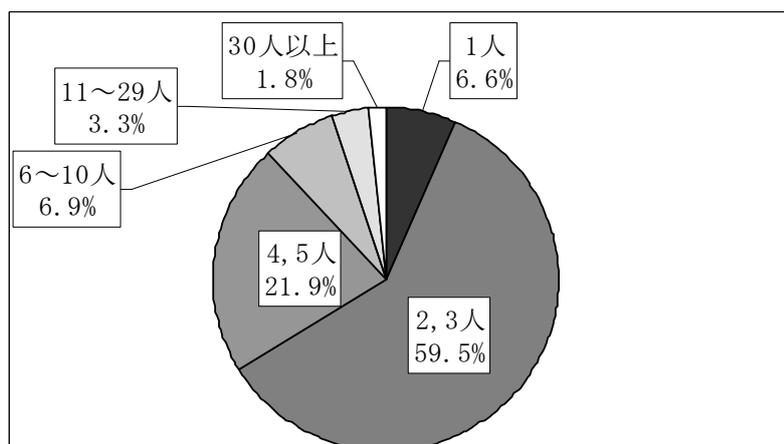
(3) 旅行日程

「日帰り」が53.2%、「宿泊」が46.8%と、日帰り客がわずかに宿泊客を上回っている。宿泊客の内、「1泊2日」が52.1%で、次いで「2泊3日」が37.4%と、2泊以内が約9割(89.5%)を占める。



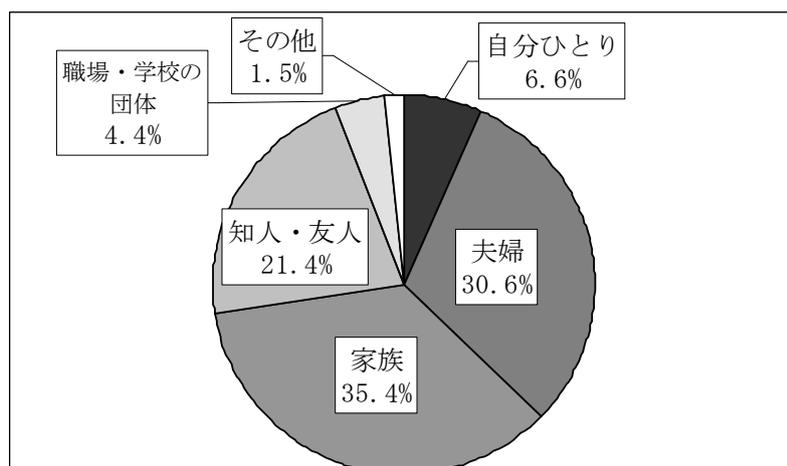
(4) 同行人数

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、全体として「2, 3人」が最も多く全体の約6割（59.5%）を占める。



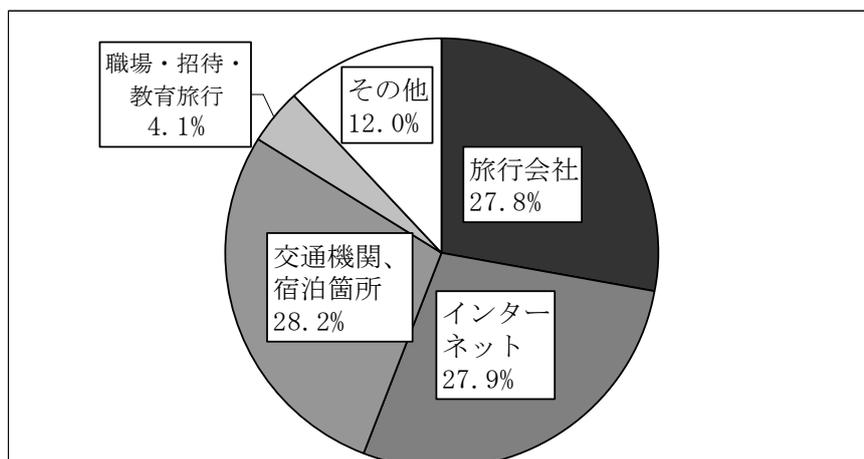
(5) メンバー構成

日帰り、宿泊でほぼ同じ傾向であり、全体として「家族」が最も多く35.4%、次いで「夫婦」30.6%であった。夫婦を含めた家族単位での訪問が全体の約7割弱（66.0%）を占める。



(6) 購入方法

宿泊客について、交通機関、宿泊等の手配（購入）方法を見ると、「旅行会社」、「インターネット」、「交通機関、宿泊箇所」がほぼ同じでそれぞれ3割弱を占める。

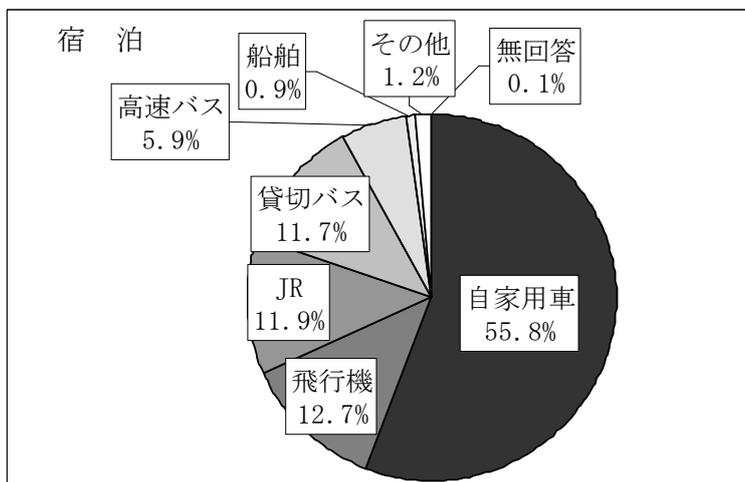
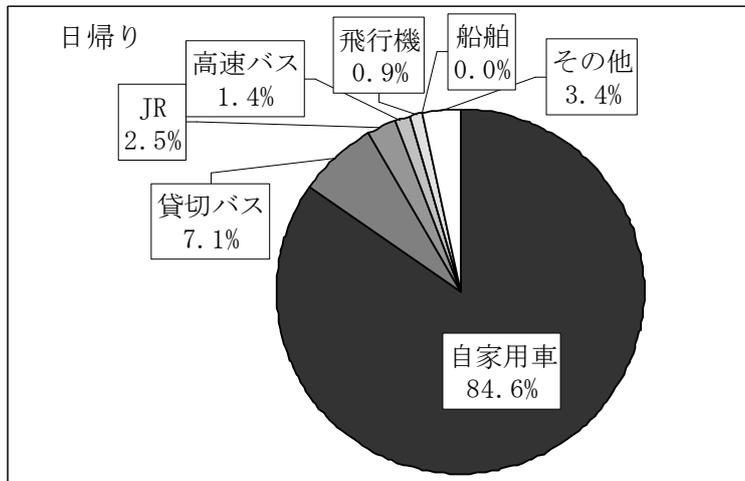


(7) 利用交通機関

ア. 日帰り・宿泊別入り込み割合

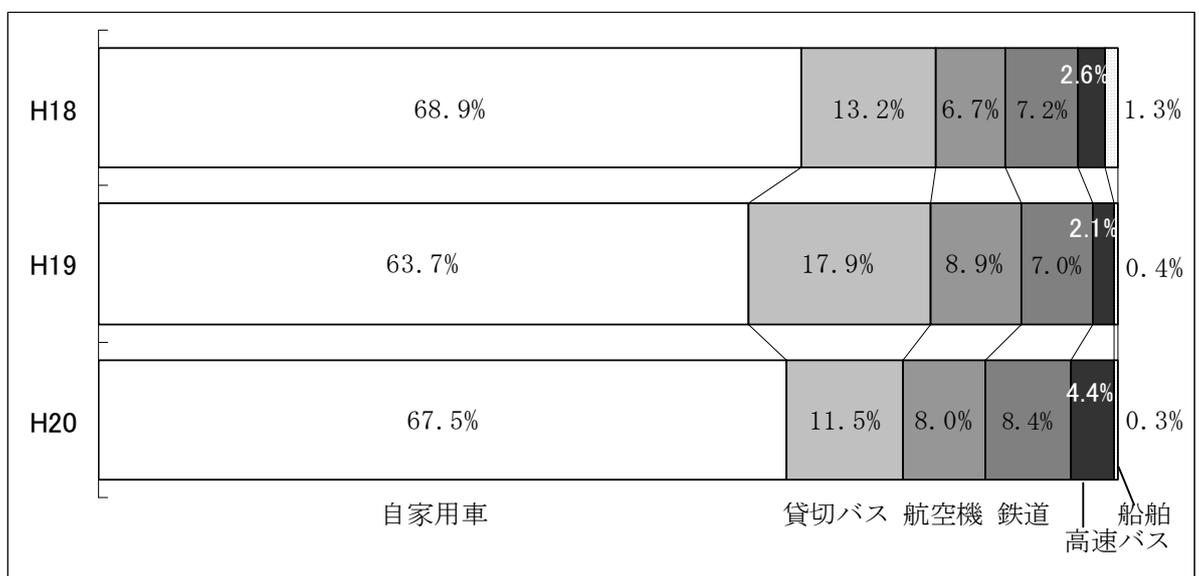
日帰りでは、自家用車が約8割(84.6%)を占めている。

宿泊では、自家用車が約5割(55.8%)、次いで飛行機、JR、貸切バスがほぼ同じでそれぞれ約1割を占めている。



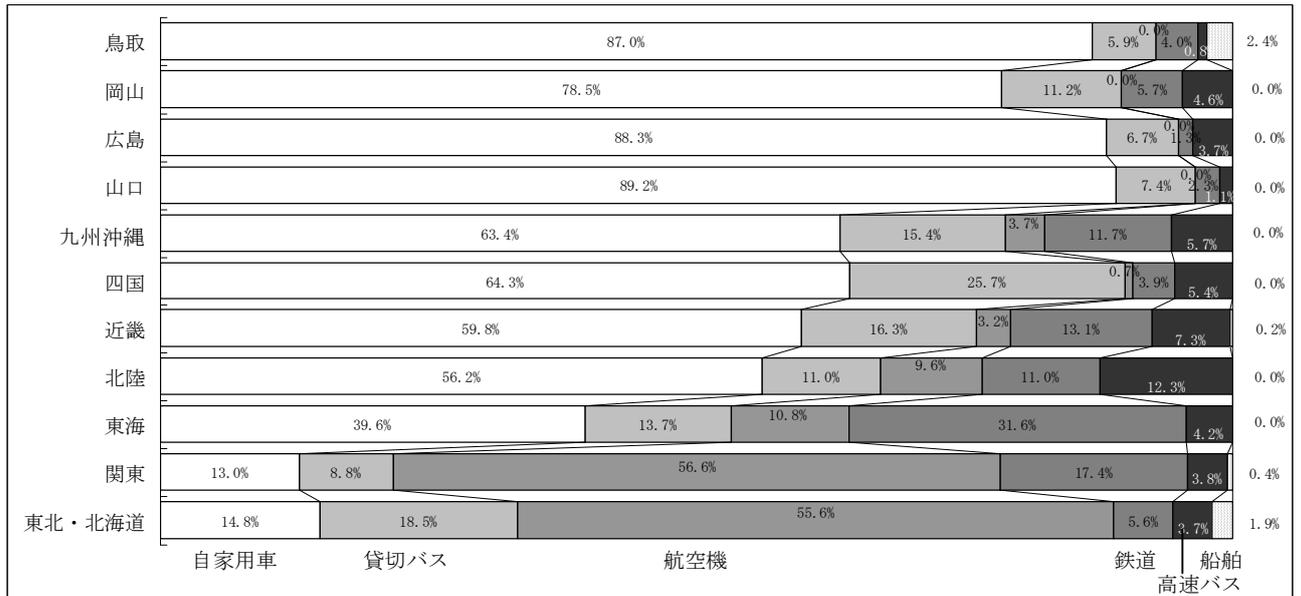
イ. 県外観光客入り込み割合

県外客について利用交通機関別にみると、自家用車が最も多く全体の6割強を占め、次いで貸切バス、航空機の順となっている。過去2年間と比べてもほぼ同じ傾向である。



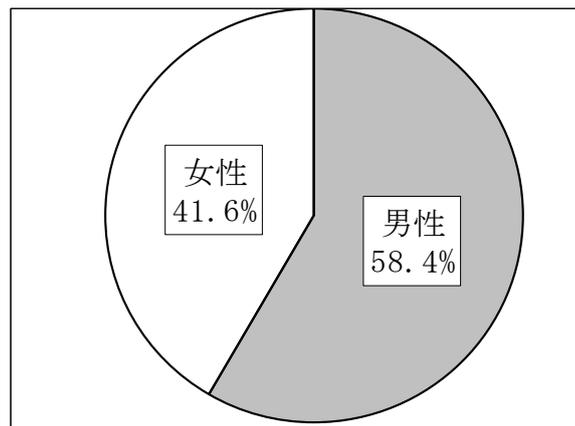
ウ. 地域別(県外)移動手段別割合

県外客について地域別にみると、中国、九州、四国、近畿、北陸では自家用車が5割以上を占め、一方、関東、東北・北海道では航空機が5割以上を占めている。



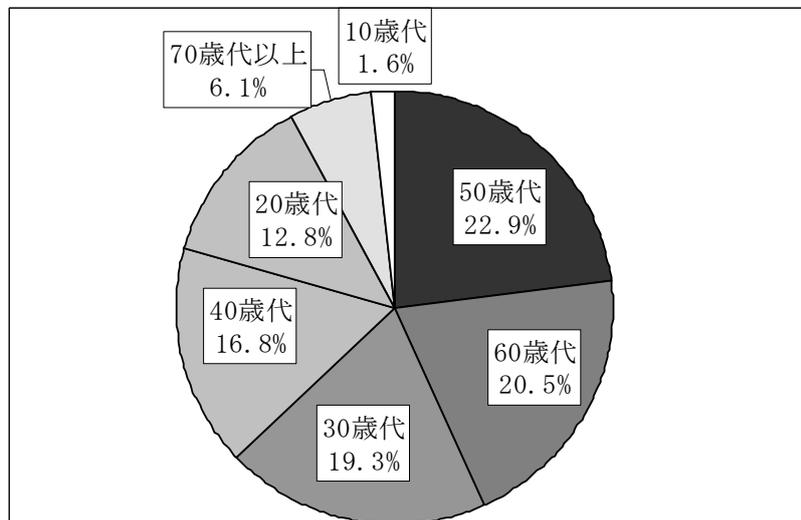
(8) 性別

日帰り、宿泊ではほぼ同じ傾向であり、全体として「男性」が約6割(58.4%)、「女性」が4割(41.6%)であった。



(9) 年齢

日帰り、宿泊ではほぼ同じ傾向であり、全体として「50歳代」が最も多く22.9%、次いで「60歳代」20.5%であり、50歳代以上が約半数を占めている。



(10) 満足度

日帰り、宿泊ともに、「満足」が最も多く、次いで「ほぼ満足」が多かった。

「満足」「ほぼ満足」を合わせると 79.6% (対前年比-6.8%、日帰り 75.7%、宿泊 84.1%) となっており、日帰りより宿泊の方が若干満足度が高かった。

「やや不満足」「不満足」を合わせると 6.3% (対前年比+0.5%、日帰り 7.3%、宿泊 5.1%) でその主な理由としては、「道路に関する苦情」「駐車場の混雑」「飲食店・旅館でのサービスが悪い」であった。

